

●●●2022年4月～6月期 栃木県中小企業景況調査(172回)●●●

【栃木県D I 指数天気図】

今期(県内全体)の業況



D I 値
-17.3
※全国 -14.4

業況

県内全体の業況(DI値)は、前期(1-3月期)より13.6ポイント改善の-17.3ポイントとなり、全産業において改善となった。特に前期に大幅悪化となった小売業では、26.8ポイントの改善となったが、全産業で仕入単価の上昇が経営上の問題点として第1位にあげられており、高止まりが続いている。

来期は、建設業、小売業で悪化が見込まれるが、製造業、サービス業では改善が続く見込みであり、県内全体の業況としては1.5ポイントの改善となる見込みである。

全国と比較すると今期は2.9ポイント低いものの、来期も小幅の改善が続く見込みである。

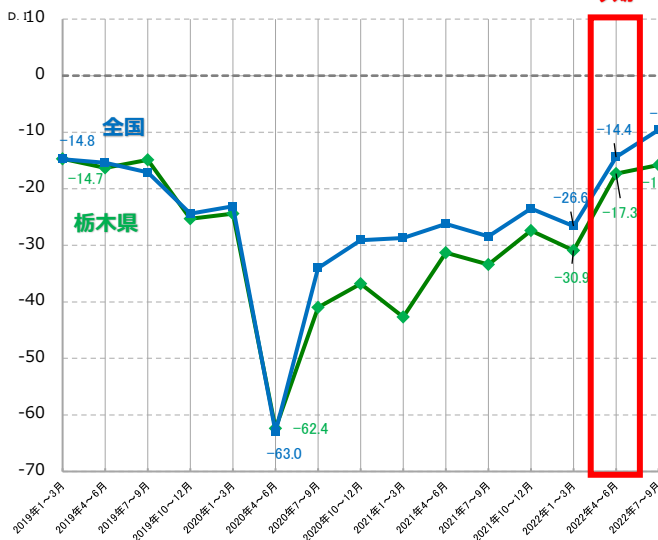
～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
D I 値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

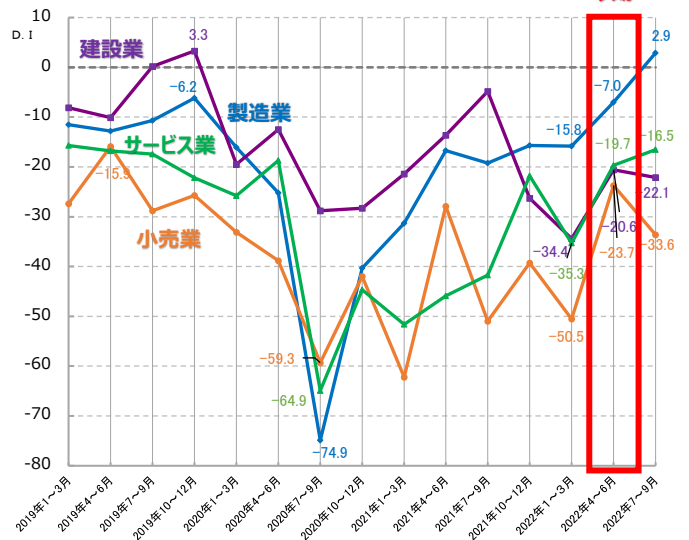
業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	D I 値	-7.0	-10.0	72.4	-30.0	-10.0	2.9 (↗)
業況：前期から+8.8ポイント改善、来期は+9.9ポイント改善の見込み							
建設業							
	D I 値	-20.6	-45.0	90.0	-40.0	-25.0	-22.1 (→)
業況：前期から+13.8ポイント改善、来期は-1.5ポイント悪化の見込み							
小売業							
	D I 値	-23.7	-7.5	53.9	-35.0	-30.0	-33.6 (↘)
業況：前期から+26.8ポイント改善、来期は-9.9ポイント悪化の見込み							
サービス業							
	D I 値	-19.7	3.4	64.4	-25.0	-16.9	-16.5 (→)
業況：前期から+15.6ポイント改善、来期は+3.2ポイント改善の見込み							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

全国と栃木県の業況の推移

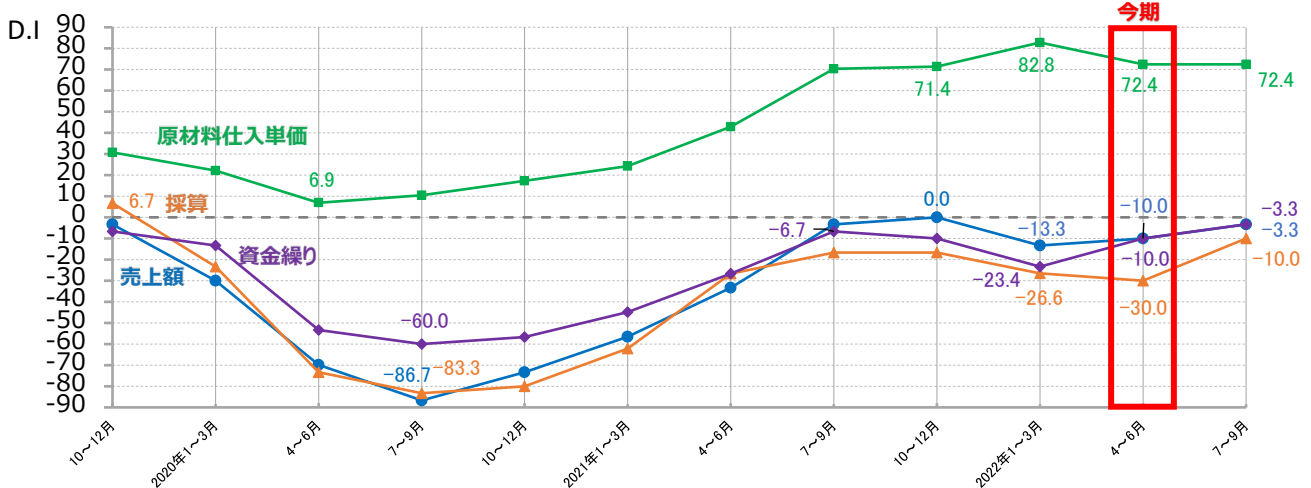


業種別業況の推移



製造業

「原材料仕入単価が大幅改善も、来期も高止まりが続く見込み」



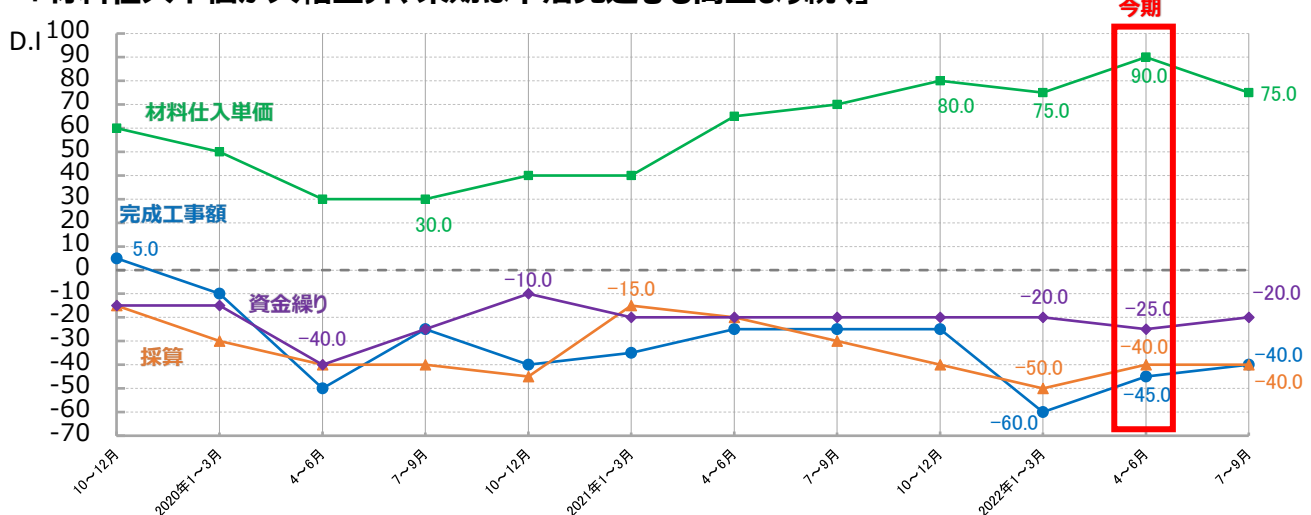
2期連続の大幅悪化となっていた「資金繰り」は13.4ポイント(-23.4→-10.0)と大幅改善となった。「売上額」は3.3ポイント (-13.3→-10.0)と小幅の改善となった。「採算」は-3.4ポイント(-26.6→-30.0)と2期連続の悪化となった。来期は「売上額」は6.7ポイント(-10.0→-3.3)、「資金繰り」は6.7ポイント(-10.0→-3.3)と小幅ながらも改善が続く見込みであり、「採算」は20.0ポイント(-30.0→-10.0)と大幅改善が見込まれる。

前期に大幅上昇となった「原材料仕入単価」は-10.4ポイント (82.8→72.4)と大幅下落となった。来期においては横ばいとなり、高止まりが続く見込みである。

- 【経営上の問題点】 第1位： 原材料価格の上昇 (42.1%) 第2位： 需要の停滞 (19.7%)
 第3位： 製品ニーズの変化への対応 (7.9%) 第4位： 従業員の確保難 (7.9%)

建設業

「材料仕入単価が大幅上昇、来期は下落見込むも高止まり続く」



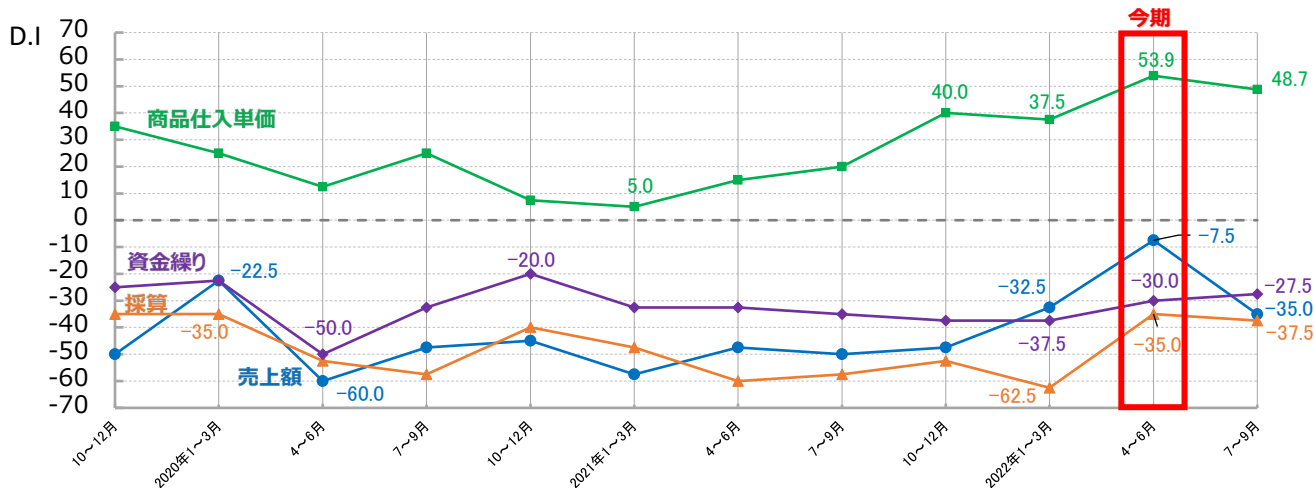
「材料仕入単価」は15.0ポイント (75.0→90.0)と大幅上昇し、2019年10-12月期調査より約2年間の調査期間で最高値となった。来期は-15.0ポイント (90.0→75.0)と大幅な下落となる見込みである。

「完成工事額(売上額)」は前期の大幅悪化から、15.0ポイント(-60.0→-45.0)の大幅改善となった。「採算」は10.0ポイント (-50.0→-40.0)と、2021年1-3月期より5期ぶりの改善となった。2021年1-3月期より停滞状態となっていた「資金繰り」は-5.0ポイント(-20.0→-25.0)の悪化となった。来期は「完成工事額(売上額)」5.0ポイント(-45.0→-40.0)、「資金繰り」は5.0ポイント(-25.0→-20.0)の改善、「採算」は横ばいとなる見込みである。

- 【経営上の問題点】 第1位： 材料価格の上昇 (36.4%) 第2位： 従業員の確保難(27.3%)
 第3位： 官公需要の停滞 (12.1%) 第4位： 民間需要の停滞 (12.1%)

小売業

「売上額、採算で大幅改善も、来期の売上額は大幅悪化の見込み」



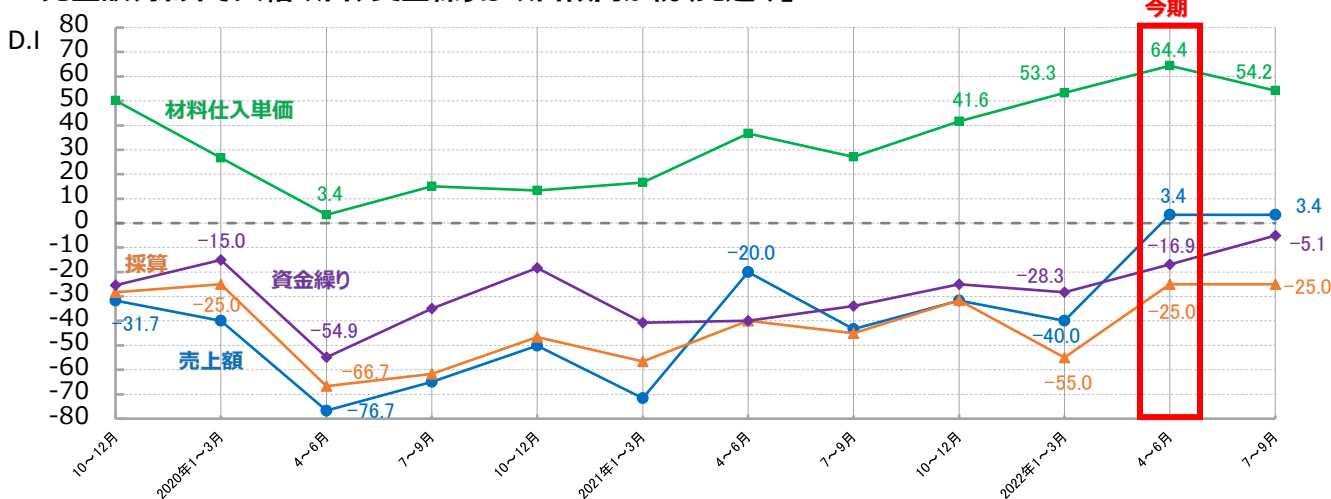
「売上額」は25.0ポイント（-32.5→-7.5）の大幅改善となり、2020年1-3月期を上回る最高値となった。「採算」は27.5ポイント（-62.5→-35.0）と大幅改善し、2020年1-3月期の最高値と同値となった。「資金繰り」は7.5ポイント（-37.5→-30.0）の改善となった。来期は「採算」は、-2.5ポイント（-35.0→-37.5）、「売上額」が-27.5ポイント（-7.5→-35.0）と大幅悪化する見込みである。「資金繰り」は2.5ポイント（-30.0→-27.5）の改善となり、小幅ながらも改善が続く見込みである。

前期で小幅の下落となった「商品仕入単価」は、16.4ポイント（37.5→53.9）の大幅上昇となった。来期は再び小幅の下落となるものの、高止まりが続く見込みである。

- 【経営上の問題点】 第1位：仕入単価の上昇（18.6%） 第2位：需要の停滞（18.6%）
 第3位：消費者ニーズの変化への対応（15.3%） 第4位：大・中型店の進出による競争の激化（8.5%）

サービス業

「売上額、採算で大幅改善、資金繰りは改善傾向が続く見込み」



「売上額」は43.4ポイント（-40.0→3.4）と大幅改善し、2019年10-12月期調査より約2年間の調査期間で最高値となった。「採算」は30.0ポイント（-55.0→-25.0）と前期の悪化幅を上回る大幅改善となり、「資金繰り」においても11.4ポイント（-28.3→-16.9）の大幅改善となった。来期は、今期で30ポイント以上の大幅改善となった「売上額」と「採算」で横ばい、「資金繰り」は11.8ポイント（-16.9→-5.1）と今期と同幅の改善が続く見込みである。

「材料等仕入単価」は11.1ポイント（53.3→64.4）と大幅上昇したが、来期は-10.2ポイント（64.4→54.2）下落する見込みである。

- 【経営上の問題点】 第1位：材料等仕入単価の上昇（31.3%） 第2位：利用者ニーズの変化への対応（13.3%）
 第3位：従業員の確保難（10.0%） 第4位：需要の停滞（10.0%）

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的实施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

下野市・粟野・足尾町・益子町・茂木町
小山市おもいがわ・岩舟町・喜連川・那須塩原市・足利市坂西

○調査時点

2022年6月1日

○調査対象期間

2022年4月～6月期の実績及び、2022年7月～9月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。



編集：栃木県商工会連合会 経営の見える課

発行所：栃木県商工会連合会 栃木県宇都宮市中央3丁目1番4号

次の100年も
ここに商工会

TEL 028-637-3731・FAX 028-637-2875